

歴史のなかで陵墓をみていくと、
そこには現在では思いもよらない姿があった――

高木博志（京都大学准教授）
山田邦和（同志社女子大学教授） 編 二〇一〇年一〇月刊行

歴史のなかの

天皇陵

▼A5判・三〇〇頁／定価二、六二五円（税込）

ISBN978-4-7842-1514-0



『文久山陵図』近衛天皇陵

各時代に陵墓がどうあり、社会の中でどのように変遷してきたのか、考古・古代・中世・近世・近代における陵墓の歴史をやさしく説く。京都アスニーで行われた公開講演に加え、研究者・ジャーナリストによるコラムや、執筆による座談会を収録。

【目次】

総論 古代・中世の陵墓問題	山田邦和
総論 近世・近代の陵墓問題	高木博志
天皇陵と古墳研究	菱田哲郎 （京都府立大学教授）
奈良平安時代における天皇陵古墳	北康宏 （同志社大学准教授）
平安時代の天皇陵	山田邦和
江戸時代の天皇陵	上田長生
幕末期の陵墓修復と地域社会	（大阪市史料調査会調査員） 高木博志
天皇陵の近代	

座談会 歴史のなかの天皇陵

上田長生・北康宏・高木博志・菱田哲郎・山田邦和（50音順）

●コラム●

「天皇陵」における前方後円墳の終焉（高橋照彦）
平安京・京都近郊の陵墓と古墳（山本雅和）
藤原氏の陵墓―葬法と寺院と―（堀裕）
仏塔に埋葬された上皇（上島享）
天皇の怨霊とその祭祀（山田雄司）
中世の天皇の死（河内将芳）
綏靖天皇陵前東側所在の石燈籠について（福尾正彦）

江戸時代の大仙陵（伝仁徳天皇陵）と
周辺住民（鍛冶宏介）

小中村清矩文書・門脇重綾文書の
皇霊祭祀関係資料（武田秀章）

近代古墳保存行政と陵墓（尾谷雅比古）

宮内庁による陵墓管理の根拠（外池昇）

終戦直後の天皇陵問題（外池昇）
――発掘是非の議論と日本考古学協会による立ち入り――

世界遺産と君主制・王領（桜井絢子）

百舌鳥・古市古墳群、
世界遺産暫定リスト記載決定（今井邦彦）



『文久山陵図』神武天皇
畝傍山東北陵

思文閣出版

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		（京都 取引コード 3402）	
冊数	冊	歴史のなかの天皇陵		本体2,500円（税別）	ISBN978-4-7842-1514-0
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） ☐ 代引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい）				書店番線印

日本古代都市史研究 古代王権の展開と変容

堀内明博著

永年、平安京などの都市遺跡発掘調査に携わった著者の研究成果。長岡京の東宮と左京東院、平安京の条坊と市・町の形態、宅地と建物配置などの王朝都市から白河・鳥羽殿、源氏・平氏の館などの中世前期都市まで都城の展開と変容過程を時系列的に分析し、古代王権のあり方を考古学の成果を踏まえて解明した一書。掲載図版多数。

▶B5判・514頁／定価15,750円

ISBN978-4-7842-1457-0

※蓬萊山と扶桑樹 日本文化の古層の探究

岡本健一著

中国伝来の神仙思想のうち、不老長生の仙境「蓬萊山」のイメージと、生命更新の仙木「扶桑樹」のシンボルが、日本の古代文化におよぼした影響の諸相を、歴史考古学的に明らかにする。「蓬萊山」と「扶桑樹」は古墳時代を解き明かすうえで二大キーワードであるはずが、なぜか古代史や考古学の分野では、長らく見過ごされてきた。20年前より「前方後円墳＝蓬萊山起源」説を提唱してきた著者の研究集大成。

▶A5判・442頁／定価5,775円

ISBN978-4-7842-1400-6

正倉院展六十回のあゆみ

奈良国立博物館編集・発行

終戦直後の昭和21年に奈良帝室博物館で第1回正倉院展が開始されて以来、秋の風物詩となっている正倉院展の歩みを各回の主な出陳宝物の図版や特徴・エピソード・出陳一覧などのデータと各分野の研究者によるエッセイでたどる。

▶A4判・286頁／定価3,150円

ISBN978-4-7842-1440-2

東アジアのなかの日本

上田正昭著

折口民俗学を継承する著者の昨今の論文や講演録などを選んで収録。日本列島の歴史や文化の実像をよりあざやかにするために、海を媒介とするアジアとのかかわり、とりわけ東アジアとの関係を重要なテーマとしてきた著者がまとめた最新の一書。

▶A4判・376頁／定価2,520円

ISBN978-4-7842-1479-2

日本古代即位儀礼史の研究 思文閣史学叢書

加茂正典著

本書は大嘗祭はもちろん、剣璽渡御儀礼・即位式といった広義の即位儀礼をとりあげることににより、桓武・平城朝における即位儀礼の儀式的意味と歴史的意義を明らかにする。さらに資料篇として古代即位儀礼史料年表、新嘗祭・大嘗祭関係文献目録（昭和20年～平成10年）を収載し、巻末には索引を付す。

▶A5判・480頁／定価9,030円

ISBN4-7842-0995-6

鎮守の森の物語 もうひとつの都市の緑

上田篤著

大阪万博の会場計画に、「お祭り広場」として鎮守の森の概念を取りこんで以来、30年以上にわたり調査・研究にあたってきた著者の総決算。「鎮守の森はひとびとの生活や生産、信仰や芸能を含む文化複合体である」という観点から、北は津軽から南は沖縄まで、鎮守の森を実際に歩いた探訪記録。

▶A4判／300頁 定価1,785円

ISBN4-7842-1155-1

文人世界の光芒と古都奈良 大和の生き字引・水木要太郎

久留島浩・高木博志・高橋一樹編

近代奈良において個人により形成され多様な史資料の「かたまり」である水木コレクションを主な分析の素材とし、日本史学・考古学・建築史学・国文学・美術史学・地理学・社会言語学等にわたる学際的な一書。国立歴史民俗博物館の共同研究の成果。

▶A5判・口絵カラー4頁・本文504頁／定価8,190円

ISBN978-4-7842-1481-5

近代京都研究

丸山宏・伊従勉・高木博志編

歴史都市・京都は近代に大きく変わったまちであった——。京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果。

▶A5判・628頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1413-6

※大津京跡の研究

林博通著

天智天皇造営の大津宮の所在地については多くの学説と論争があったが、1974年の著者による遺構発見以後、数十カ所の発掘が行われ、構造復原の作業が進められた。永年にわたる大津京論争に決着をつける、初の包括的な研究集成。口絵および本文収録図版182点。

▶B5判・280頁／定価9,240円

ISBN4-7842-1073-3

奈良朝人物列伝 『続日本紀』 薨卒伝の検討

林陸朗著

『続日本紀』には王臣・僧侶等の死没記事の後にその人の略伝的な記事掲げることがある。これを薨卒伝といい、撰者の批評的記事交えた極めて特色ある史料として注目される。本書は『続日本紀』収録の全54名の薨卒伝をとりあげ現代語訳・訓読・原文・語句解説・考察で構成。特色ある54の生きざまから、権謀うずまく奈良朝政治のうら側が見えてくる。

▶A5判・468頁／定価7,350円

ISBN978-4-7842-1517-1

※正倉院宝物に学ぶ

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院研究の現在、八世紀の東アジア文化、宝物の保存・伝承の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粹がわかる一書。

▶A4判・口絵8頁 本文430頁／定価3,150円 ISBN978-4-7842-1439-6

※古代日本の輝き

上田正昭著

日本の歴史と文化を支えている「古代的精神・古代的要素」とはなにかー広くアジア史をも視野に入れて折口民俗学を継承する著者が喜寿の節目にまとめた一書。

▶A4判・300頁／定価1,785円

ISBN4-7842-1167-5

京の鴨川と橋 その歴史と生活

門脇禎二・朝尾直弘編

歴史都市京都のシンボリック的存在である鴨川とそこに架かる橋について、平安京以前から昭和まで、各時代の様子を具体的に明らかにし、人々の暮らしの中でどのような意味を持っていたかを探る。

【内容】山代（山脊）のカモ川／賀茂川と平安京／四条・五条橋の橋筋

進と一条戻橋の橋寺／公儀橋から町衆の橋まで／四条河原の芝居 など

▶A4判・250頁／定価2,310円

ISBN4-7842-1082-2

一宮ノオト

齋藤盛之著

古来より現代まで続く「一宮」に魅せられた著者が、全国68の一宮を巡拝。オールカラー・写真・図版多数。神々が活躍する神代の由緒、古代人のロマン、歴史に名を残した先人の足跡や祭礼の様子、現在の信仰の姿まで、それぞれの一宮についてイメージーションあふれる筆致で古今縦横に語る。

▶B5判・180頁／定価2,310円

ISBN4-7842-1138-1

※王権と神祇

今谷明編

実証的研究の蓄積が少ない天皇制や大嘗祭、また権門体制論・顕密体制論によって規制されがちな中世神祇史について、実態面の研究を積み重ね、さらに中世日本紀や神道書の考証も重ね合わせることににより、王権と宗教に関する新たな見取り図を描き出すことを目指した意欲的な論集。国際日本文化研究センターにおいて行われた共同研究の成果。

▶A5判・384頁／定価6,825円

ISBN4-7842-1110-1

みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編

研究分野の相違を問わず、また時流の政治や論調に動ずることなく「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じようと開かれた京都大学人文科学研究所「近代京都研究会」。そこで論じられたさまざまな分野の具体的な主題をもとに近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。

▶A5判・268頁／定価2,730円

ISBN978-4-7842-1378-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。